

「トピックス」 令和8（2026）年度

## 第1回 「あきおおた楽（がく）」

### 一町の未来を育む 保育・教育の大樹一

令和8年度がスタートしました。今年度、安芸太田町の認定こども園・保育所、小学校、中学校の保育・教育は、町の未来を育む大樹へと成長しています。

大きな樹を支える礎となるのは、「子どもたち一人一人の『声』（=子どもの意見表明）」です。私は子どもを単に「守られる対象」とは見なさず、共に町を創る「パートナー」として考えています。昨年度の「教育長と語る会」や「こどもの意見表明アンケート」では、各校児童会・生徒会から、提言が次々と出されました。自分の意見が学校や町を動かすという当事者としてのリアルな経験が、子どもたちを「受動的な存在」から「未来の町の創り手」へと変えていくのです。

そして、礎から吸い上げられた子どもたちのエネルギーは、3つの太い幹となり大樹を育みます。

第1の幹は、「15年間の一貫した保育・教育」です。こども園・保育所と小学校、そして中学校へと円滑な接続、更には県立加計高等学校との連携に基づいた体制により、画一的な枠組みから脱却します。

第2の幹は、「自然と文化が最高の教室とする保育・教育」です。町内全4園・所が取得した「ひろしま自然保育認証」に基づき、「もりみんな山のこども園—こもれびの森ひみつきち」での活動をいっそう推進するとともに、その環境を小学校・中学校に繋げていきます。正解のない自然の中での試行錯誤と、

神楽など伝統文化の体験的学びが、子どもたちの好奇心と探究心を大きく伸ばします。

第3の幹は、「地域と創る保育・教育」です。学校・園・所が「自前主義」を脱皮し、「コミュニティ・スクール」や「学校・園・所支援ボランティア」のメンバーなど、地域の皆さまと共に安芸太田町らしい保育・教育を創造します。

この大樹を育むシステムを、私は「あきおおた楽（がく）」と名付けています。「あきおおた楽」を支えるのは、「不易（変わらない地域の豊かさ）」と「流行（最先端の仕組み）」の両立です。DX（デジタル・トランスフォーメーション）などの「流行」を積極的に取り入れながらも、「太田川が育む大いなる自然」や「豊かな文化と歴史」、そして「人と人との温かい繋がり」などの「不易」をいっそう育みます。

このような子どもたちは、「あきおおた楽」をもとに、自分自身と安芸太田町に誇りを持って成長します。そして、発展可能な未来を創り出します。子どもたちが生き生きと学び、自らの人生を切り拓く姿は、町民一人一人のウェルビーイングの向上に直結し、持続可能な町づくりの原動力にもなります。

安芸太田町教育委員会は、本町教育振興基本計画に基づき、「将来の町を見据えた発展可能な町の創り手の育成」と「安芸太田町らしいウェルビーイングの向上」に努めてまいります。本年度も、皆さまの変わらぬご理解とご支援をお願い申し上げます。

安芸太田町教育委員会 教育長 大野 正人